

『安全を守り、コロナに勝つ ～危機を乗り越え、再び成長軌道に戻す一年に～』

ANA ホールディングス株式会社 代表取締役社長
片野坂 真哉

年末年始は、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、平年の賑わいから程遠い利用率となりました。それでも、この状況下でも ANA グループの航空便をご利用頂いたお客様に、心より御礼申し上げます。また、英国などで感染力の強い新型コロナウイルスの変異種が流行し不安も高まる中、エッセンシャルワーカーとして高い使命感を発揮し、日々のオペレーションを支える、乗務員をはじめとした全ての皆さんの努力にも心から感謝申し上げます。

昨年の新年挨拶では、成長の源泉である「人」にこだわる年にしたいと申し上げましたが、まさに 2020 年は、ANA グループの社員の皆さんが、本当に我慢強く、力を発揮して頂いた年になりました。感染不安の中、ANA Care Promise など清潔で衛生的な環境を確保し、また多くの社員がリモートワークなど新しい生活環境の変化の中で、安全を守り、日々の業務を遂行して頂きました。武漢チャーター、医療用のガウンの縫製ボランティア活動をはじめ、ANA グループ社員の取り組みが、社会からも高く評価されました。まさに「人の力」に支えられた年となりました。

新年のスタートにあたり、私たちが認識すべきことは、危機感を常に持ち、そして必ず良くなるという希望を忘れないということです。この正念場の 1 年を乗り越えるための重要なポイントとして以下の 5 つを挙げます。

1. 「安全」: 何と言ってもエアライングループにとっては安全が第一です。
2. 「営業キャッシュフロー」: 今はまだマイナスが続いていますが、早期に単月でのプラスを目指します。
3. 「スピード」: コロナ影響の長期化を覚悟し、資金の確保を続ける目的は「ANA グループの新しいビジネスモデルへの変革」を加速させることにあります。社会や人々の意識が変わる、航空需要も大きく変化するという予測を立て、ANA のこれまでのサービスモデルを思い切って変えていきます。重要なことは、スピードにあります。なぜなら、生き延びようとしているのは他の競合エアラインも同じであり、新しいサービスやマーケティングの打ち手を繰り出してくるからです。危機を乗り越えるアイデアや取り組みについて、多様な意見を積極的に取り入れていきます。
4. 「コスト削減」: 2020 年度は約 1,500 億円、2021 年度は約 2,500 億円のコスト削減を行います。機材費、整備費、人件費、賃料、調達改革など 2 年間で約 4,000 億円の実行に着手しています。コロナ禍の長期化と収入の不透明な中で、確実に利益を出していくために、2021 年度は確実な一歩を踏み出す年です。
5. 「人」: 今年も変わりません。エアラインビジネスはまさに「人」の移動で成り立っています。そしてそのビジネスを支えるのは、ANA グループのこれも「人」です。雇用を守るという宣言を行い、資金の続く限り堅持する考えは少しも変わりません。このコロナ禍により、リモートワークのみならず、ANA グループは採用や雇用、働き方の分野で新しい時代の流れを取り入れていきます。

今年こそ、人類全員の知恵と努力により、この新型コロナウイルスを制圧し、安心、安全な社会を取り戻す年にしなければなりません。私たちは、「安全」を第一に、自分たちの力で、コロナ禍の危機を乗り越え、再び成長軌道に戻っていく、そういう年にしようではありませんか。ANA グループ 4 万 6 千人の「あんしん、あったか、あかるく元気！」な「人の力」で、前を向いて進みましょう。

以上